

英国 FSA における PO 設定に係る考え方について

英国食品基準庁 (Food Standards Agency : FSA) : 2015 年までに英国で生産される鶏肉中のカンピロバクターを低減するための官民共同の目標
(The Joint Government and industry target to reduce Campylobacter in UK produced Chickens By 2015) December 2010

【概要】

カンピロバクターは、英国の食中毒原因菌の中で主要な微生物として位置づけられており、EU において実施されたベースラインサーベイ

(2008) において、英国における鶏肉中のカンピロバクター汚染率が EU 平均よりも高かったことが示されたことを受け、英国国内で生産される鶏肉におけるカンピロバクターを低減させるため、政府と産業界が合意し、共同して 2015 年までに成し遂げるべき目標及び対策が提示された。

人のカンピロバクター感染症の発症に関し、最大のリスクをもたらす原因食品は鶏肉であるとされたこと、食鳥処理後から消費までの間においてカンピロバクターのばく露要因が複数存在するとされたこと、フードチェーンを通じて食品中にカンピロバクターが混入すると結論づけられたこと及び汚染菌数の多い鶏が公衆衛生上最も高リスクであるとした先行研究の結果に基づき、数値目標はカンピロバクターの汚染率ではなく、汚染菌数で設定した。食鳥処理の最終段階 (冷却後) において、カンピロバクターの菌数の多い鶏の割合を減らすことを目標とした。

2008 年の調査時点における鶏のカンピロバクター汚染状況について、汚染菌数を 100 CFU/g 以下、100~1,000 CFU/g、1,000 CFU/g 以上の 3 グループに区分してその割合を調べた結果、100 CFU/g 以下の汚染菌数であった鶏の割合は 42%、100~1,000 CFU/g の汚染菌数であった鶏の割合は 31% であり、1,000 CFU/g 以上の汚染菌数であった鶏の割合は、27% であった。このような 1,000 CFU/g 以上の汚染菌数の鶏の割合を 2015 年までに 10% まで低減することを目標に掲げ、当該目標は、FSA、環境・食糧・農村地域省 (DEFRA)、英国家禽協会 (British Poultry Council)、全国農業組合 (National Farmers Union)、英国小売協会 (British Retail Consortium) が加盟するカンピロバクターに関する合同作業部会によって合意された。

農場段階での汚染低減の取組みとしては、2011 年 4 月より、Red Tractor Farm Assurance Poultry Standards – Broiler and Poussin (レッド・トラクター農場認証—ブロイラー及びプーサン養鶏場基準) による、養鶏場のバ

バイオセキュリティを強化した新しい農場基準が導入された。この新基準は、合同作業部会の一部大手小売業者の認証制度にも採り入れられ、新しいバイオセキュリティを導入した養鶏場のモデルでは、最も高濃度に汚染されたグループ (1,000 CFU/g 以上) の鶏の割合は、ベースラインの 2008 年時点の 27% から 2013 年には 19% まで減少すると予測された。

食鳥処理段階での汚染低減の取組みとしては、ターゲットの 5 年の期間において、汚染菌数レベルの低減に繋がる工程ポイントを特定できる食鳥処理場自己評価ツール、食鳥処理場の衛生に関するツールの開発及び活用により、モデルによる推計では、汚染菌数 1,000 CFU/g 以上の鶏の割合がベースラインの 2008 年時点の 27% から 2013 年までに 10% まで低減できるとの結果が得られた。

小売段階での目標値は、ベースライン情報の不足により設定されなかった。今後、更なるベースラインデータが得られた場合は、小売段階での目標設定を検討することとされた。

人の健康への影響 (カンピロバクター感染症の患者数に及ぼす影響) については、他の要因が一定程度のままであった場合に、農場 (養鶏場) 及び食鳥処理場において計画的な介入措置を実行することにより、カンピロバクター感染症の患者数を 15~30% 削減できる可能性が示された。

※参考情報<英国における産官連携のカンピロバクター対策及びその結果について>

産業界と政府関係者で情報共有・連携し、汚染菌数の多い鶏 (1,000 CFU/g 以上) を低減させる取組みを行った結果、小売段階で汚染菌数の多い鶏の占める割合は 2014 年が 20%、2015 年が 12%、2016 年は 7% と減少した (FSA: Latest figures reveal decline in cases of campylobacter. Last updated: 14 March 2017)。

2017 年 8 月から 2018 年 7 月までの調査では、大規模チェーンで 7% であったのに対し、小規模小売店では 15% であったことから、以降は比較的小規模事業者に取り組みを集中させ、すべての英国産鶏肉についてカンピロバクター汚染レベルを低減する取組みを続けることとされた。(FSA: Changes to the campylobacter retail survey. 21 September 2017)

英国の 2009~2013 年のカンピロバクター感染症患者の平均は 71,261 人であったが、取組みが行われた以降、2016 年では 59,142 人となり、12,119 人の患者数が減少した (FSA: Latest figures reveal decline in cases of campylobacter. Last updated: 14 March 2017) が、2018 年で再び増加し、69,636 人と報告された。(FSA: FOODBORNE Disease Estimates for the United Kingdom in 2018. January 2020) このことについて、FSA は、原因は不明であり、鶏肉の汚染率の傾向からは説明できないとした。(FSA: FSA Board Meeting – 18 September 2019. Campylobacter reduction programme: update)